

巨大な単独子実体を発生させる「オニフスベ」は、それほど稀なキノコではありません。私も小学生の頃から知っていて、今までに恐らく十回ぐらいは目撃しています。芝生や竹林を好み、時には庭先に突然現れることもあります。キノコと知らない人が驚いて、「庭に爆弾があります！」と119番通報をしたという実話もあるそうです。消防士さんもびっくりしたでしょうね。

オニフスベは成長中は真っ白で、内部もはんぺん状で、水分も弾力もあります。しかし真菌類の子実体が形成される目的は、胞子の生産と拡散です。成熟してくると、内部の水分が少しずつ抜けて、はんぺん状だった内部も、古綿状の菌糸に覆われるようになります。同時に大量の胞子が形成され、胞子の塊のボールのような姿になります。このように菌体の内部にできる胞子塊は「グレバ」と呼ばれ、かつてはそのような真菌を「腹菌類（網）」に分類していました。

オニフスベは職場の大学構内にも発生したことがあります。見つけた時はすでに古綿状になっていて、重さもわずか150gしかありませんでした。持っているのは、キノコが大好きだった女の子です。計算したわけではないですが、内部の胞子は数億個でしょう。もちろんほとんどが発芽も成長もしません。全部の胞子が発芽して成長したら、2世代目には世界中の地表はオニフスベで埋め尽くされてしまいます。

(1999年9月中旬／お茶の水女子大学構内)

